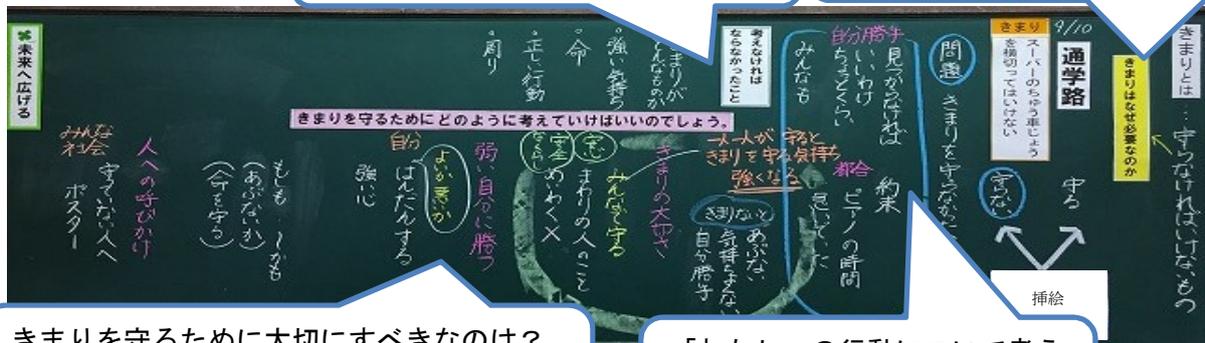


●指導の実際

第5学年【生活場面から問題を設定】

考えなければいけなかったのは？
○きまりの大切さ ○強い意志

アンケートの結果から「きまり」
はどうして必要なか考えよう。



きまりを守るために大切にすべきなのは？
○きまりの意味○良いか悪いか判断する力
○守っていない人への呼びかけ

「わたし」の行動について考えよう。
どこに問題があるの？

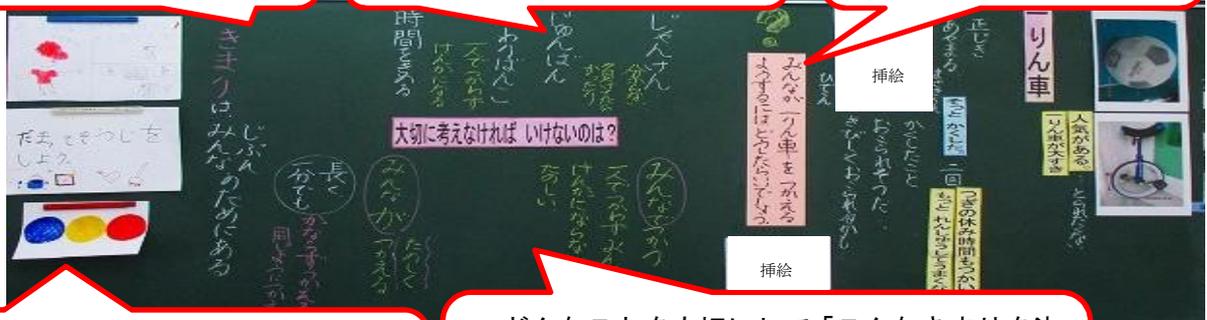
- きまりを守ることで、みんなが安心して楽しくらせるから、きまりを守ろうと思った。
- みんながきまりを守ろうとする意識が大切だと思った。
- 今のきまりは、自分やみんなの未来につながるものだと考えた。

第2学年【教材の中から問題を設定】

きまりは、みんなのためにも自分のためにもなるね。

みんなが使える方法は？
○順番にしよう。○時間を決めたらいい。○じゃんけんは？

二人がもう困らないように、一輪車をみんなが使えるように考えよう。



身の回りにはどんなきまりがあるの？
○廊下を走らないこと○交通ルール

どんなことを大切にして「こんなきまりを決めたら良い。」と考えたの？
○みんなの物だからみんなで使えば、楽しいし、けんかをしない。

- 友達が言ったこと（発表したこと）の理由がよく分かった。
- きまりは、みんなが使う物をみんなが楽しく使えるためがあると分かった。
- きまりは、みんなのためにあるんだなと思った。

成果と課題

- 問題解決的な学習の指導過程を明確にすることで、一つ一つの過程で児童に考えさせなければならぬことが明確になり、発問や話し合いの方法を工夫することができた。
- 教材から問題を見つけ具体的な方法を考えさせ、その方法に共通する思いや道徳的価値について考えさせる指導過程は、低学年でも考えやすいことが分かった。
- 終末に「発展」の過程を設けることで、より自分の生き方につなげることができた。
- 問題をより自分のこととして考えさせる工夫をする必要があった。生活体験とつなげ、自分ならどうするかを問うなどの工夫を行う。
- 発達の段階に応じた話し合いの方法を系統的に考える必要がある。